

2013年12月30日

平成24年度 庭野平和財団 活動助成 報告書

コード番号：12-A-236

公益財団法人 庭野平和財団

理事長 庭野欽司郎 殿 2013年[平成25年] 12月30日

申請団体 もくもく里山PJ

代表者氏名 こせきたけし 役職名 生年月日

小関 健之  代表 昭和18年8月14日 生

申請団体住所 〒562-0044

Tel:072-722-2882

大阪府箕面市半町2-19-36 Fax:072-722-2882

E-mail:texaspapa3@gmail.com

連絡責任者氏名 こせきみなこ 役職名 生年月日

小関 皆乎 事務局 昭和22年2月06日 生

連絡先 〒562-0044

Tel:072-722-2882

大阪府箕面市半町2-19-36

Fax:072-722-2882

E-mail:8minako@gmail.com

助成事業の名称 対象分野(1 2)

「高齢者と若者による、引きこもり（登校拒否含む）をなくすためのワーキングキャンプ」

助成金額 500,000 円

1. 活動の目的

大阪府の北部に位置する都会から近い田舎（箕面・豊能）は飛び地であったため田舎の原風景が奇跡的に残っている。しかし高齢化の波が押し寄せ、里山の荒廃や耕作放棄地が増え景観の保全が急務となっています。農業を志す非農家の若者、高齢者の任意団体、地元農家がお互いの長所や団所を補い会うことで解決の道を模索しました。

そこで、引きこもりやニートと呼ばれる若者を対象に農や野外活動を介したワーキングキャンプの開催を企画しました。

親元から離れ農作業や野外活動を行うことで、これらの問題の解決を探ることを試みます。多く問題や困難を抱え社会に一步踏み出せない状況から集団でないと達成できない、農作業などを経験しながら「働く喜び」「人への感謝」などを体感し、就労へ一步踏み出す契機となる活動を目指します。地元農家にとっては、高齢化とともに後継不足も顕著で、農繁期の人手不足が特に深刻化しています。若者たちが労働力を提供し、農家からはワーキング体験の場の提供を受け、相互協力システムを構築します。「もくもく里山PJ」の高齢者（理事）が地元農家や行政や農業委員会との橋渡しを行い、スタッフの若者の支援をする世代間交流により事業のスムーズな運営を図ります。

2. 活動の内容と方法

【内容】

- ・多様な体験イベントや宿泊キャンプを開催し（日帰りからスタートし最大7泊8日／年間50日以上／参加者延べ20名超）参加者はじめ多くの方々との共生や関係性の構築を目指す活動。
- ・ニート、引きこもりや就職難民の方や生活保護受給者、はたまた多様な課題を持つ障害者の方とイベントを通して強い信頼関係を結ぶことで社会に一步踏み出す契機をつくる活動。
- ・高齢化による耕作放棄が進む地域や、地域でこれから農業を担う若手の農家の方との繋がりを構築し共生関係をつくりながら、ワーキングキャンプを定着させる活動。
- ・参加による体験イベントを通して、目標や自分自身の人生を模索できる姿勢づくりを支援する活動。
- ・中間支援サポート等公的就労支援受講に向けて、目標意識の明確化、チームワークづくり、コミュニケーション術の円滑化を、農を介した軽作業等に取り組むなかで対応できる素地を育むための活動。

【方法】別紙参照（活動パワーポイントで紹介）「全3回の蕎麦イベント開催」一例を記載



全3回の蕎麦イベント開催（リーフレット参照）

スケジュール

2013年06月30日（日）10：30～16：30 敵の整地～種蒔き

2013年10月26日（日）10：30～16：30 蕎麦の実収穫

（鹿獣害で蕎麦が食い荒らされ全滅で中止）

2013年12月01日（日）13：30～16：00 蕎麦打ち体験

①全3回蕎麦イベントを開催するための会議開催 ②蕎麦打ち予行演習③委託の耕作放棄地の管理
④蕎麦畑の管理地元農家の手伝い（田植え・草取り草刈・野菜植え付け&収穫・稲刈り・地域特産の柚子収穫手伝） ⑤6月（種まき）～7月8月9月10月（草取り・水やり・手入れ）～11月（蕎麦収穫）～12月（蕎麦打ち）の①～⑤工程をニートや引きこもりの若者と実施しながらコミュニケーション力やチームワークづくりの能力を身につけるための活動。

【ワーキングキャンプ実施メンバー】

「もくもく里山PJ」 小関健之代表・尾立征四郎副代表・小関皆乎理事（事務局）

「参加スタッフ」 村上雅紀（農業・統括）赤澤龍太郎（農業・加工）小川智哉（広報・会計・農業）竹本渉太（広報・カウンセラー・農業）田中あづさ（販売・調理・農業）以上5名

「耕作放棄地提供・協力」 箕面市・豊能町の農家

【活動スケジュール】

平成24年11月01日 庭野平和財団活動助成開始

11月16日→22日 6泊7日 農作業体験宿泊キャンプ開催
(ゴボウ堀、玉葱の定植、燻炭など)

11月29日 大豆収穫体験イベント

12月00日 柚狩り体験→写真①

12月08日 農作業体験イベント (生活保護受給者支援事業・とよなか楽塾)

12月26日→27日 1泊2日 餅つき+農業宿泊キャンプ開催

01月19日→20日 1泊2日 味噌づくり・おしるこ料理体験宿泊キャンプ開催

12月16日 みのお市民活動センター「シニア・カフェ」の招聘により活動発表→写真②

01月31日 麹・味噌づくり講座 (参加者21名) →写真③

02月03日 節分 (恵方巻き料理・豆まき) イベント+味噌づくり体験
(時間内に豆まき開催できず)

02月08日 蕎麦仕分け作業体験イベント (生活保護受給者支援事業・A'ワーク創造館)

02月22日 塩麹づくり&塩麹と味噌を使った料理講座 (参加者17名) →写真④

03月03日 ひな祭りイベント

03月17日 親子蕎麦打ち体験&試食交流会 (21名) →写真⑤

03月29日 カレー料理体験キャンプ開催

05月03日 自家製野菜カレー販売 (常工場跡の再生活用を考えるシンポジウム開場)

05月05日 田植え体験→写真

05月11日 ニート・引きこもりの蕎麦打ち体験講座 (参加者1名) →写真⑥

06月16日 農作業体験キャンプ (玉葱、ニンニク、ラッキョウ収穫) →写真⑦

06月30日 農作業体験キャンプ (ニンニク、人参、じやがいも収穫)

06月30日 蕎麦畑の整地と蕎麦の種蒔き (参加者4名) →写真⑧

07月07日 草刈り・草抜き・収穫

07月21日 草刈り・草抜き・収穫

08月04日 草刈り・草抜き・収穫

08月24日 畑整備

09月25日 草刈り・草抜き・収穫

10月10日 稲刈り体験+蕎麦畑の手入れ→写真⑨

10月20日 畑整備

10月26日 蕎麦収穫体験 (獣害防止ネットを超えた鹿の食害に合い全滅し体験中止)

11月30日 ゴボウ掘り体験→写真⑩

12月01日 世代を超えて蕎麦打ち体験 (参加者19名) →写真⑪

12月08日 シンポジウム開催・「支援農」<竹本渙太・小川智哉 事例発表>→写真⑫

別紙参照:【2013・12・08 パワーポイント添付】もくもくプレゼン

①柚子狩り体験

②「シニア・カフェ」招聘

③麹・味噌づくり



④塩麹を使った料理

⑤親子蕎麦打ち



⑥ニート引きこもりの蕎麦打体験

⑦玉ネギ植え

⑧蕎麦の種蒔き



⑨稻刈り体験

⑩ゴボウ堀

⑪世代を超えて蕎麦打ち講座



⑫シンポジウム



4. 活動の成果

- ・日本でもあまり例のないワーキングキャンプの取り組みを実施できた意義は大きい。
- ・元失業者だった若者スタッフの運営による、ニートや引きこもりも若者を対象とした活動は、垣根がなく参加者が親近感を持ち、ワークキャンプへの参加意欲をわかせました。
- ・キャンプ参加により、初めて食事の支度を経験した若者もあり、自ら育てた作物の尊さを知り、食生活の改善に目を向けるようになった。インスタントから脱し、キャンプで学んだ出汁の取り方を日常生活でも取り入れるなどライフスタイルにも変化が現れました。
- ・参加者は苦手だった起床や集合が体験や合宿回数を重ねるうちに出来るようになり、外に向けて踏み出すための自信をつけました。
- ・仕事に就いた参加者も現れる、新規参加者の面倒を自発的にみるなど、自主性や積極性が培われた。
- ・高齢者・農家・若者・ニートや引きこもりの若者・親子・生活保護受給者など世代や立場を超えた交流を経験し視野を広げ視点の多様性が育ちました。
- ・スタッフの若者も活動に携わり切磋琢磨の連日であった。参加者とともに成長し責任感と逞しさを身につけました。

- ・生活保護受給者たちが活動を知り、自立を目指して参加するなど思わぬ波及効果が現れた。
- ・参加者の感想文から、状況の改善や回復に向かった喜びや謝意が読み取られ、カウンセラーからも机を挟むカウンセンリングより、回復の速度や度合いが顕著であるとの評価がありました。
- ・世代や立場を超えた交流により、高齢者も若者たちから学ぶことが多く、今後の活動や生きがいにつながるスキルを与えられました。

【カウンセラー：竹本渓太 記述】

助成活動スタートより多様な体験イベントや宿泊キャンプなどを開催し多くの方々との関係性を構築することができました。とりわけ当初想定していたニート、引きこもりや就職難民の方や生活保護受給者、はたまた多様な課題を持つ障害者の方とはイベントを通して強い信頼関係を結ぶことに繋がった事を実感いたします。また、地域でこれから農業を担う若手の農家の方との繋がりも昨年度の活動から継続して共生関係ができました。

特に参加日数が多くなった参加者においては体験イベントを通して新規の参加者への気配りや目標をもって自分自身の人生を謳歌しようとする姿勢が見られ変化が非常に大きいものとなりました。中間的就労とはコミュニケーション講座やビジネスマナーなどの座学、カウンセリング、キャリアコンサルティングを経て社会への一歩を踏み出す為の土台を構築した後に行うもので、職場実習等への出口支援に向けて目標意識の明確化、チームワーク構築の円滑化や軽作業などに取り組むものです。

今回の活動ではその中間的就労という位置づけで取り組んでまいりましたが、その言葉が意味する本来の目的に極めて近い形の成果が出たと分析できます。

5. 今後の課題

- ・今回のシンポジウムの広報では、引きこもりがちなという表現はじめ“ニートや引きこもりの当事者が社会に踏み出すための講座や活動成果報告シンポジューム”掲載にあたり編集者が表現に苦慮された。オープンな形の開催・展示報告・は、当事者のプライバシーもあり非常に難しく、活動の周知が難しいでした。
- ・シンポジウム参加者はたった3人でした（みのお市民活動センター；須貝理事長・NPO 花とみどり街・づくり箕面&NPO 山麓委員会；事務局重本幸彦氏・認定 NPO 法人日本食品リサイクルネットワーク関西支部：吉田栄治支部長）参加予定で当日欠席2名。当事者＆家族・専門機関の参加はなかった。パーソナルサポートセンターなど専門機関主催による全国規模の研修集会へ参加のパーソナ関係や行政関係者は多い。研修集会では、個人のプライバシーに関わる事例発表もあり、一般参加が認められないなど制約も多いです。誰もが参加できて情報交換ができる場の必要性を感じ、成果発表シンポジウムを開催しましたが参加者は3名にとどまり周知活動の難しさに直面しました。
- ・広報用ポスター・チラシや展示パネルにも、当事者のプライバシーを侵害しない細心の注意が必要で、公共機関にチラシを大っぴらに並べる訳にもゆかず、当事者や関係者に情報を届けるのが非常に困難な半面、ホームページやブログから情報を得て問い合わせがあり、広報のパラドクスに遭遇しました。
- ・5月11日「引きこもらないでみんなで蕎麦打ちをしよう」と高齢者・不登校児・青少年を対象に広報紙で呼びかけた。広報紙からの申し込みは皆無であった。3月17日実施の「春休み親子蕎麦打ち体験」の広報では定員をオーバーしたのに比べ歴然たる差に驚きをかくせませんでした。

- ・人権センターやパーソナルサポートセンターといった支援機関を介しての紹介や、既存の参加者が継続しての参加が殆どで、当事者が情報えて自発的に申し込み体験に参加するのは希である。そのようなケースでは既に回復に向かっている当事者であり、一歩踏み出すことの難しさを痛感しました。
 - ・高齢者による「もくもく里山プロジェクト」は厚生労働省・緊急雇用特別分野の委託を受けて併催2年4月にスタートしました。雇用の若者は耕作放棄地や相続税免除の耕作地を借り定住を視野に入れた農業活動を始めました。しかし、耕作放棄地は市の農業公社発足に当たり、地主は公社に管理を委託し明け渡した。相続税免除の耕作地も市の農政課が仲介に入ってくれたが、活動の活性とともに人の出入りが多くなり目立ちはじめ地主から明け渡しを通達された。借地での継続的活動の難しさを痛感しました。
 - ・箕面市山間部の私有地（県道沿いバス停すぐ）を賃貸しコミュニティカフェを平成24年10月13日にオープンした。①地域の余剰野菜の青空販売の場として、②カフェ業務を介したワークトレーニングの場として、③緊急雇用助成終了後の雇用者5名の就業の場として、④耕作放棄地を利活用し無農薬有機野菜栽培の安全な農と食の普及の場として、⑤高齢者・若者・引きこもりなどの当事者の集いの場として、⑥田舎と都会をつなぐ地域が元気を取り戻す場としての実現を目指してプロジェクトをスタートさせました。しかし、緊急雇用助成が平成25年3月に終了した時点で、地主より借地明渡し並びに設置カフェ撤去の要請があり、申請内容の滞在型ワークトレーニングは半期（池田市古江町に借りた合宿所を引き払う6月まで）しか出来なくなった。トレーラーで設置カフェ（簡易ボック型ハウス）を移動し現在も箕面市に保管中である。不動産の貸借・借地・耕作地の安定した賃貸契約の成立の必要性に直面しました。
 - ・そのような状況下で緊急雇用助成3月にも終わり、平成25年6月から、滋賀2名・京都1名・大阪1名・高知1名と培ったスキルを活かせる仕事に就きました。大阪での活動は箕面市と県道をはさんで隣接する豊能町の農家の理解と支援、庭野平和団活動助成のお陰で通いでワークキャンプが継続できました。
 - ・また、農業公社に管理を委託された地主もニンニク収穫・そば種蒔き・蕎麦の実収穫体験の終了する11月まで農地を提供して協力くださったお陰で、全3回蕎麦イベントを開催することができ、就職先の滋賀県に拠点を移しての若者の今後の活動に期待しています。
- ニート引きこもり支援プロジェクトの継続と発展のための公的な機関の理解、各種助成、支援などのサポートを必要とします。

取材・掲載

ボランティア OSAKAN VOL.68 多様な主体が参加する 地域づくり、まちづくり

（福）大阪府社会福祉協議会・大阪府ボランティア・市民活動センター

朝日新聞・朝日ファミリー 2013年2月22日 充実世代のコミュニケーション術

地域活性の活動を通じて世代を超えたつながりを実現

みのおエフエムタッキー816 <http://fm.minoh.net/minohnow/log.php?date=201210131418>

箕面市広報紙（もみじだより）前月告知（お知らせ）欄